東庄町史

上卷

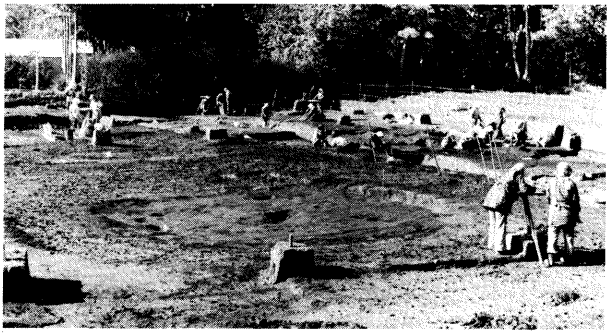
題字　東庄町長　向後　彰

東庄町史　正誤表
（上巻）

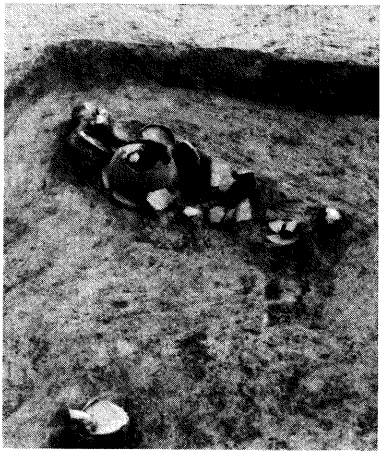
頁	行	誤	正
一三	第7図四段目五	須賀村	須賀山村
三一	一・二	「笹川地域」以下を下記のとおり訂正	笹川地域だけでも最盛期は年間約一万トンの水揚げがあった。利根川のしじみは全国生産量の八〇%をまかなってきたといわれている。
八五	終りから三	（フオッサナ、マグマという）	（フオッサ・マグナという）
九五	六・九・一六	神代	東和田
九七	三	阿玉台期	阿玉台期
一〇二	写真上キャプション	（銚子市東山貝塚出土）	（銚子市余山貝塚出土）
一一九	写真下キャプション	宮下遺跡	宮ノ前遺跡
一二三	終りから六	宮ノ下遺跡	宮ノ前遺跡
一二四	六	宮ノ下遺跡	宮ノ前遺跡
一四六	終りから二	「下海上郡」	「下海上国」
一八六	写真下キャプション	清盛落馬	親政落馬
二九五	一（系図）	常知	常和
三二〇	六	東北約	東方約
三二二	終りから五	本書六六三ページ	本書六五九ページ
三四六	終りから四	「大友河辻下」	「大伴河辻下」
四一七	終りから二・一	令可収…可有違者也（ママ）	全可収…可有相違者也（ママ）
四二六	終りから七	上総国武射	上総国武射
四八〇	第24表右側中央	諸役高口永（165文）	諸役高口永（16.5文）
四八九	終りから一	町東小南城	町東城
四九五	第四図	万才村（干汲）、関戸村（干汲）	万才村（干泻）、関戸村（干泻）
五一〇	終りから三	湖椿	椿湖
五二四	一	菅野嘉門	菅谷嘉門
五三二	六	彦七	彦八
五三五	三	彦七	彦八
六四三	三	惣郷之祖石ラ	惣郷之祖（租）石ヲ
六四四	終りから八	庚和五	康和五
六五〇	一二	手廻ホ	手廻等
六五二	終りから二	……祝祠……祝祠	……祝詞……祝詞
六八六	終りから五	第12	第14
六九〇	七	青監	青藍
七〇八	終りから四	当日四日夜	当月四日夜
七一二	一	羽計村右衛門伴	羽計村□右衛門伴
二三三	前から三	縁頼	縁数

空　か　ら　見　た　東　庄　町（昭和57.9.5撮影）

高部宮ノ前遺跡の発掘風景（千葉県文化財センター発掘）



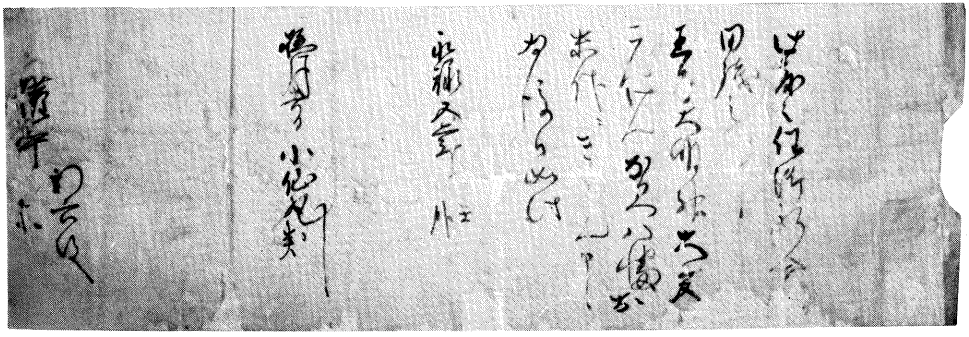
古墳時代後期の住居址、左側壁中央部はカマド、四隅の穴は柱穴（高部区宮ノ前遺跡第010号住居址　昭和57年調査）



古墳時代の住居址と甕（カメ）・坏（ツキ）などの土器（宮ノ前遺跡第004号住居址）

古墳時代の土器出土状態（宮ノ前遺跡第020住居址）

妙見像（宮本区　東保胤家所蔵）



遠藤慶隆寄進状（今郡区　郡光嗣家所蔵）

天正の検地帳（右から鹿野戸・今郡・谷津区所蔵）

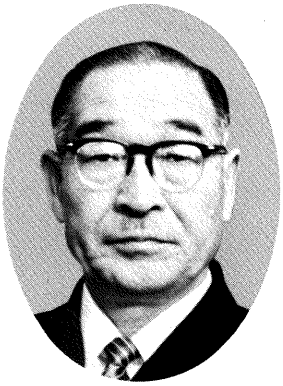
延享４年の小南村・青馬村と粟野村の新道ならびに秣場論裁許の時の絵図面（小南区所蔵）

補陀洛山　福聚寺（小南区）

絹本著色十六羅漢像図（県指定有形文化財・小南　蔵福寺所蔵）

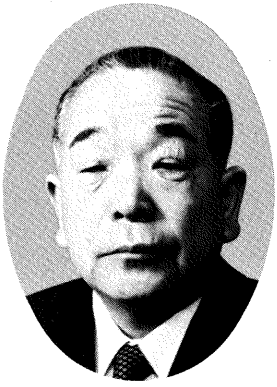
紙本著色　鉄牛和尚像
（県指定有形文化財・小南　福聚寺所蔵）

歴代町長



二代・三代・四代
向後省三

初　代
羽計　晟



七　代
大後四郎左衛門

六　代
野口勘司

五代・八代・現在
向後　彰

歴代町議会議長

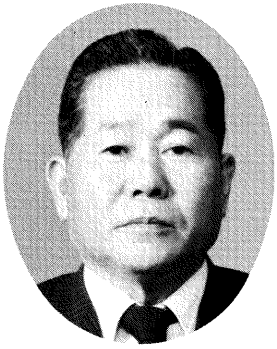
二代　向後　省三

初代　五十嵐憲治

六代
七代
八代　高橋　修司

五代　岡野正雄

三代
四代　清水　利一

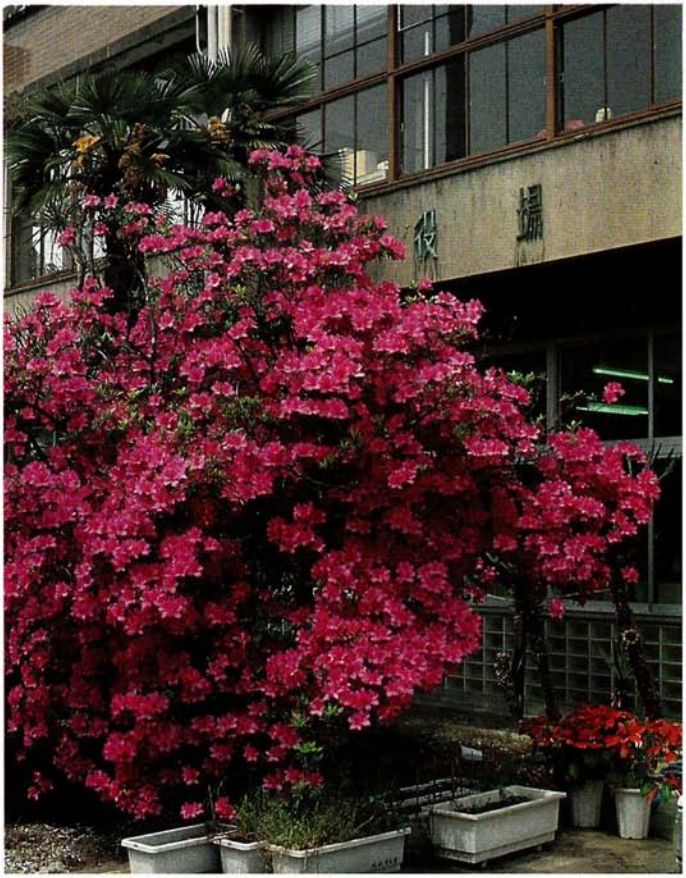


十一代
現　在　高橋　誠

十代　海宝精太郎

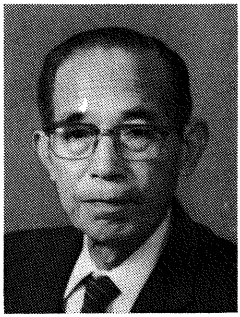
九代　海宝　喜一

東庄町役場



町の木　おおむらさき

序



東庄町は、利根の流れと、緑豊かな自然環境に恵まれた古い伝統のある町であります。東庄町に住む人々は、この地域的特性のもと、健康で、文化的な生活を希望いたしております。

町行政は、町民のための、よりよき地域社会を作りあげるため、環境、福祉、教育、産業振興等の、綜合的、かつ計画的な施策の展開をはからねばなりません。

今後の長期安定化時代を迎えるにあたり、生活の安定をはかるとともに、心の豊かさを求めあう町民性の創造のため、物心両面からの町づくりを推進し、「豊かで、ふれあいのある文化のまち東庄」の実現を目標といたしております。

東庄町は昭和三十年七月、神代村、橘村、東城村の三か村と、笹川町が合併して成立した町であります。その町名は、東氏の苗字地の「東庄」という旧土名に由来します。

その後、昭和四十年代に、本町は地域開発の一環として茨城県鹿島臨海工業地帯関連の住宅団地を誘致しました。これによって本町は、新しい住民を迎え、都市化形成の新しい

段階へと移行しつつあります。

われわれの祖先は、古代から現代にいたるまで、優れた文化を培い、粒々辛苦して今日の発展と繁栄を遂げたのです。われわれが、この愛する郷土の歴史をひもとき、過ぎし時代をさぐり、後世に伝えることは、まことに意義あるものと思います。

昭和五十年十二月、東庄町史編さん委員会条例が制定され、ついで翌五十一年五月、同編さん委員会が発足し、委員、協力員、各種団体、個人のご協力を得て、町史編さんに取り組んだわけであります。

爾来、六年余の長きにわたり、この大事業にあたられた町史編さん委員の皆様、および種々、ご指導にあたられた川村・井上・樋口の先生方をはじめ、直接、執筆・編集にあたられた諸先生方に心からお礼申しあげます。また、快よく史料を提供して下さった方々に深謝申しあげます。

町民の皆さんも、どうか本書を御愛読・御活用いただきたいと思います。

町史上梓にあたり、所懐の一端を述べ、本町の限りなき発展を祈念してごあいさつといたします。

昭和五十七年十二月

東庄町長　向後　彰

凡例

一　本書は、町民に親しまれる町史をねらいとして平易を旨とし、内容も東庄町の歴史的特性を中心に叙述するよう努力をかたむけた。

一　本書の叙述にあたっては、原則として常用漢字、現代かなづかいに準拠した。

一　引用史料は原則として原文のままとしたが、変体仮名は平仮名に、ゟは「より」に改めた。また読み易くするため引用史料には適宜読点をつけた。返り点は特に必要な場合のみにとどめた。

一　引用史料が虫損などによって文字が判読できない箇所は、四角の空欄でこれを示し、□（一字と推定の場合）、□□（二字と推定の場合）、［　］（字数の推定不能の場合）の記号で示した。

一　引用史料中の明らかな誤字、および当て字、年月日などの誤記は、その原文の横に（　）を付し傍注で記した。

一　引用史料の署名者については、原文が一段書きで長い場合には、線を引いて二段組みとした。

一　引用史料の所蔵者名はその都度これを記した。

一　刊行本の文章を引用する場合は、原則として原文どおりとした。

一　本文中、現在の東庄町域をあらわす場合は、「東庄地域」と統一してこれを表現した。また現在の区を部落と表現しているものもあるが、原文どおりとした。

一　民俗・慣行の章では、民俗語彙（ごい）は原則として片仮名書きにし、あてはまる漢字を括弧内に表記した。

一　図・表の番号は各章ごとの通し番号とした。

東庄町史（上巻）

目次

口絵
序
凡例

序章　東庄町の現況

第一節　自然環境……三
(一)　東庄町の位置・面積……三
(二)　東庄町の地勢……四

㈢　東庄町の気候・地質……八
1　気　候……八
2　地　質……一〇
第二節　社会環境……一一
㈠　東庄町の母胎となった村々……一一
㈡　東庄町の人口……一三
㈢　東庄町の土地利用……一八
㈣　東庄町の産業経済……一九
1　農　業……一九
2　漁　業……二三
3　商　業……二五
4　工　業……二六
5　東庄町の特産物……二九

(五) 東庄町の交通と通信……三二
1 道路の現況……三三
2 交通量……三四
3 自動車……三六
4 鉄道……三六
5 バス……三七
6 利根川河口ぜき……三七
7 通信……三九
第三節 町政について……四一
(一) 議会と町の行政機構……四一
1 議会……四一
2 町の行政機構……四二
(二) 東庄町の財政……四四
1 予算……四四

2　決　算……四五
㈢　現行の教育行政……四八
1　教育施設の整備……四八
2　学校教育……五二
3　社会教育・社会体育……五三
㈣　福祉対策……五四
1　児童福祉……五五
2　母子福祉……五七
3　身体障害者の福祉……五九
4　精神薄弱者の福祉……六〇
5　老人の福祉……六一
6　生活保護……六二
7　社会福祉協議会……六三
㈤　東庄町の基本構想……六五

1　策定の趣旨……六六
2　町の将来像……六七
(1)　基本目標　67　(2)　人口　68　(3)　生活水準　70
3　施策の大綱……七一
(1)　魅力のある豊かな町の基礎づくり　71
(2)　生きがいのある健康で住み良い環境づくり　74
(3)　自然に調和した活力ある産業振興を目指して　77
(4)　新しい時代にこたえる教育と文化の香り高い町づくり　78
(5)　適正なる行財政運営による構想実現を目指して　80
(六)　町　制……八一

第一章　原始・古代

第一節　原始時代……八五
(一)　日本列島の成立と旧石器時代……八五

1　日本列島の成立……八五
2　旧石器時代……八七
(二)　縄文時代……九一
1　縄文時代の展開……九一
2　東庄町の縄文時代遺跡……九四
3　縄文時代の文化……九六
(三)　弥生時代……一〇三
1　文化の革新……一〇三
2　東庄町の弥生時代……一〇七
第二節　古　代……一一三
(一)　古墳時代……一一三
1　大和国家の成立……一一三
2　古墳の発生……一一六
3　千葉県の古墳時代……一一七

4　東庄町の古墳時代遺跡……一三二
5　大和朝廷の地方統治……一四一
第三節　律令時代……一五三
㈠　律令の制定……一五三
1　律令制定の経緯……一五三
2　律令制と地方制度……一五四
㈡　東庄町の古代宗教について……一六九
第二章　中　世
第一節　東国武士団と北総の荘園……一七五
㈠　古代末期の武士と叛乱……一七五
1　武士団の成立……一七五

2　平忠常の乱……一七七
(1)　事件の経過　177　(2)　忠常の人物像　178
(3)　反乱の実態と大友伝説　180

㈡　千葉氏の誕生と発展……一八三
1　下総千葉氏の動向……一八三
(1)　古代末期の千葉氏　183　(2)　鎌倉期の千葉氏　185
(3)　中世後期の千葉氏　187
2　「千葉六党」の発展過程……一八八
(1)　千葉六党の形成　188　(2)　常胤諸子と分族　190

㈢　中世荘園制の展開……一九五
1　律令制から荘園制へ……一九五
2　郷土地方の荘園……二〇〇
(1)　東庄（橘荘）　200　(2)　木内庄　201　(3)　三崎庄　202
(4)　大須賀保（郷）　202　(5)　大戸庄・神崎庄　202

第二節　鎌倉幕府と東氏の発展……二〇三
㈠　鎌倉将軍と東氏三代……二〇三
1　治承内乱と東胤頼……二〇三
2　東胤頼と三崎庄……二〇六
3　将軍実朝と重胤・胤行父子……二〇九
㈡　承久の乱と東胤行……二二五
1　東氏の美濃移住……二二五
2　宝治合戦と素暹法師……二二八
㈢　美濃東氏の繁栄と妙見信仰……二三三
1　東氏の発展と歌学……二三三
(1)　郡上盆地の夏祭　222　(2)　東氏の統治と篠脇城　223
(3)　『東家十三代和歌集』の作品抄　226
2　栗栖郷妙見社の星祭……二三三
(1)　七日祭と妙見縁起　233　(2)　祭礼諸役の分担　237

(3) 中世の宮座制と田楽　241

第三節　東庄上代郷の土地と農民……二四三

(一) 鎌倉末期の下総東庄……二四三

(二) 東氏所領の没収と金沢称名寺……二四八

(三) 東庄上代郷の内部構成……二五五

1 集落と耕地……二五五

(1) 集落景観の復元　255　(2) 内部構成の検討　258

(3) 黒部村の年貢　261

2 農民層の存在形態……二六三

(1) 名主と在家　263　(2) 作人・小百姓　266

(3) 下人　267

第四節　中世後期の東総地方……二六八

(一) 下総千葉氏の分裂と東常縁……二六八

1　室町幕府と下総守護……二六八
2　千葉介満胤と香取神宮領……二七〇
3　関東の争乱と千葉氏……二七六
(1)　上杉禅秀の叛乱　276　(2)　永享の乱と結城合戦　277
(3)　千葉氏の分裂と馬加康胤　278
4　東常縁の関東下向……二七九
5　常縁と宗祇の「古今伝授」……二八一
(二)　戦国の動乱と東庄地方……二八四
1　戦国期房総の概観……二八四
2　戦国東総地方の在地動向……二八七
(1)　正木氏の北総侵攻　287　(2)　香取王子社と遠藤慶隆　290
(3)　千葉介胤富と森山城　293
3　小田原合戦と房総平定……三〇二
(三)　中世の城館跡と伝承……三〇六
1　大友城……三〇六

2　粟野城……三〇七
3　今泉砦（別称要害山）……三〇八
4　青馬館……三〇九
5　鹿野戸砦（別称竜神山）……三〇九
6　須賀山城……三一〇
7　沼闕城（別称小南城）……三一〇
8　羽計砦……三一一
9　和田砦……三一一
10　その他の城跡……三一二

第五節　中世郷土の文化……三一三

(一)　神祇信仰の動向……三一三

1　王子大明神の顕現……三一三

2　中世東庄の総鎮守玉子大明神……三一三

(1)　王子大明神から玉子大明神へ　322　(2)　東庄総鎮守玉子大明神　324　(3)　東氏と玉子大明神との関係　326

(4) 玉子大明神の祭費負担　331
3 妙見信仰の展開……三三四
(二) 諸信仰の動向……三三七
1 上代郷の場合……三三八
2 平山郷の場合……三四七
3 小南郷の場合……三四九
4 郡郷周辺の場合……三五〇
(三) 上代の領主松平家忠と連歌興行……三五一

第三章　近　世

第一節　江戸時代のはじまり……三六一
(一) 徳川家康の関東入封と天下統一……三六一
(二) 天正検地と慶長検地……三六三

(三)　元和・寛永期の村々の状況……三八七

第二節　各村々の生活と領主支配……三九九

(一)　笹川地域……三九九
1　須賀山村……三九九
2　鹿野戸村……四〇四

(二)　橘地域……四〇六
1　新宿村……四〇六
2　石出村……四〇七
3　今泉村……四一二
4　宮本村……四一六
5　青馬村……四一八
6　今郡村……四二〇
7　谷津村……四二三
8　羽計村……四二四

(三) 東城地域……四二八
1 小南村……四二八
2 夏目村……四三一
3 八重穂村……四三三
4 粟野村……四三三
5 小座村……四三四
(四) 神代地域……四三六
1 和田村……四三六
2 神田村……四四〇
3 舟戸村……四四一
4 大久保村……四四二
5 窪野谷村……四四三
6 平山村……四四五
7 高部村……四四六
8 大友村……四四八
9 小貝野村……四四九

第三節　農業生産と共同体……四五一
(一)　農業生産と年貢の納入……四五一
1　農業生産について……四五一
2　鹿野戸村の年貢……四六二
3　須賀山村の年貢……四六七
4　今泉村の年貢……四七八
5　上代郷の年貢……四八一
6　夏目村の年貢……四八二
(二)　新田開発と村々……四八九
1　椿湖干拓について……四八九
2　椿新田と東庄の村々……四九八
3　鉄牛禅師について……五〇八
第四節　諸産業の展開……五一八

(一) 醤油醸造……五一八
(二) 酒醸造……五二三
第五節　交　通……五四一
(一) 水上交通……五四一
1 元禄期ごろまでの河岸……五四一
2 元禄期以降の河岸……五四五
3 村明細帳からみた河岸……五五三
(二) 陸上交通……五五六
第六節　共同体としての村々……五六一
(一) 野論・境論……五六一
1 今泉村をめぐる野論……五六一
2 窪野谷村をめぐる野論……五六八

3　小南村の争論……五七〇
4　羽計村と新宿村の争論について……五七五
(二)　水　論……五七八
1　水争い……五七九
2　小座村と粟野村との用水溝往還出入……五八一
(三)　農民騒動……五八二
1　羽計村の元禄十四年一件……五八三
2　安永三年の和田村、神田村、桜井村の地頭家来糾弾一件……五八八
3　寛政二年、和田村、神田村、百姓大勢門訴一件……五九〇
4　その他の騒動……五九一
第七節　幕末期にかけての村々の状況……五九三
(一)　村々の変貌……五九三
(二)　関東取締出役の設置……五九六

(三) 関東取締出役の廻村と組合村……六〇七
第八節　宗教の動向……六三三
(一) 仏教の動向……六三三
1 東庄地域の寺院……六三三
2 寺請制度と人々……六三五
(二) 近世の玉子大明神……六四〇
1 中世から近世への玉子大明神……六四〇
2 高見磯の大神幸……六四一
3 その他の祭事……六五八
第九節　文化について……六六三
(一) 国学と村々……六六三
1 平田篤胤の来訪……六六三

2　国学の四大人について……六六五
3　平田篤胤の書状など……六六七
4　屋代弘賢への入門誓約書……六七九
5　その他……六八一
㈡　その他の学問・文芸の動向……六八二
1　性学……六八二
2　算学……六八六
3　俳諧……六九〇
第十節　いわゆる天保水滸伝について……六九七
㈠　地元と天保水滸伝……六九七
㈡　羽計村と繁蔵……七〇三
㈢　大利根河原の決闘と、それ以後について……七〇八

(四)　おわりに……七一七
第十一節　幕末から明治へ……七一九
(一)　江戸時代終末期の村々……七一九
(二)　文久・元治期の状況……七二〇
(三)　慶応期の状況……七二三

上巻見返しの地図は明治十三年～十七年測図参謀本部陸軍部測量局第一軍管地方迅測図（二万分の一）銚子近傍より複製したものである。
（野口政司氏　提供）